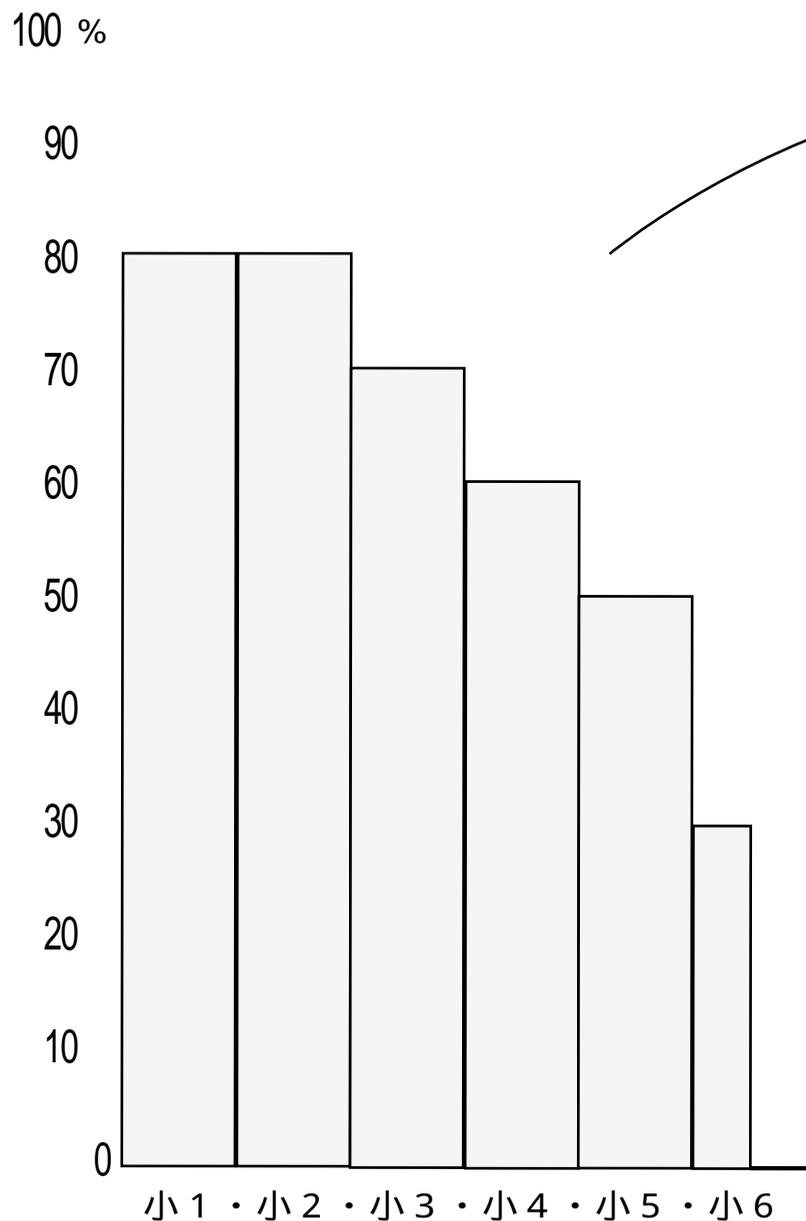
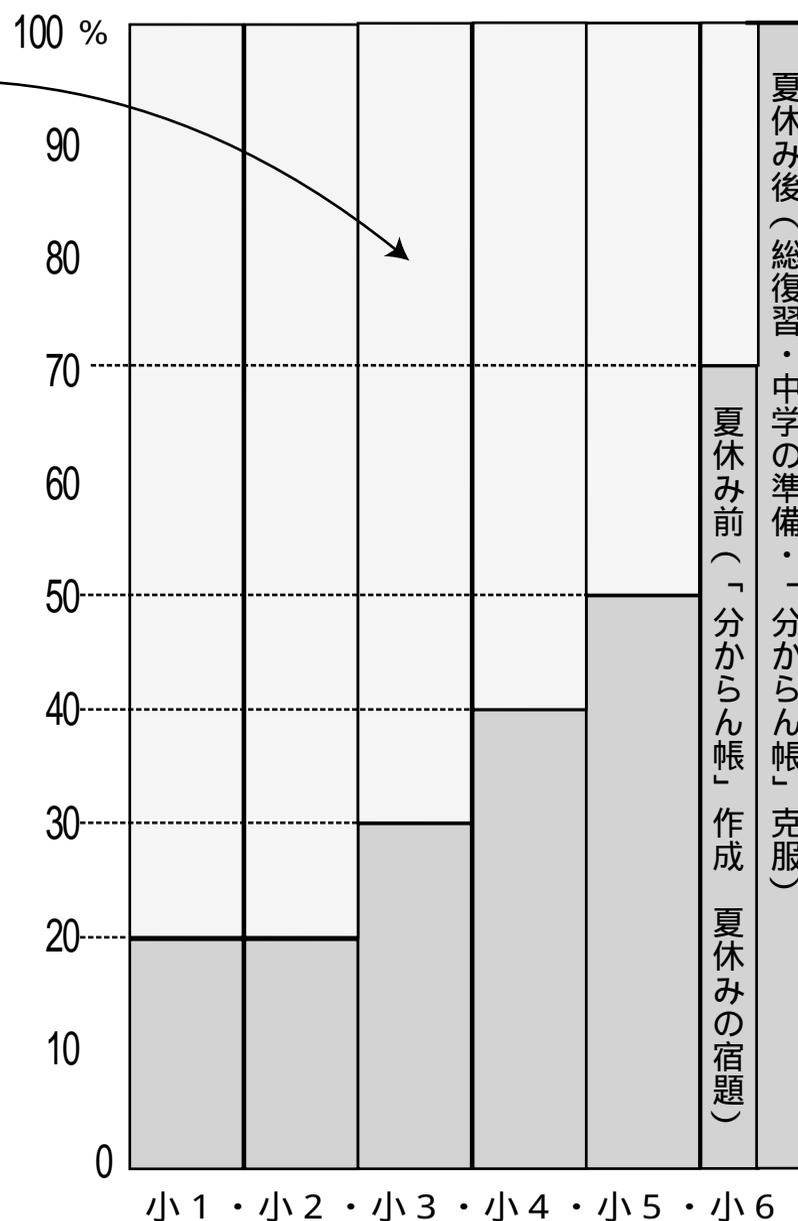


宿題全体の中で視考力養成が占める割合 (MIN)



宿題全体の中でドリルが占める割合 (MAX)



宿題の全体量に対するドリルの分量 (思考ドリルは含みません)

< 筆算の導入方法：ビジュアル筆算 >

筆算の導入には「ビジュアル筆算」が効果的です。

- ・左のページに大きく一問だけお手本となる筆算を書いて、数字の横にコインを書く。
- ・百の位には百円玉、十の位には十円玉、一の位には一円玉
- ・子供は左のページを見ながら理解して右のページに丁寧に写していく。

< 足し算 >

$\begin{array}{r} 3 \quad 4 \quad 9 \\ + \quad 9 \quad 6 \\ \hline 4 \quad 4 \quad 5 \end{array}$	$\begin{array}{r} 3 \quad 4 \quad 9 \\ + \quad 9 \quad 6 \\ \hline 4 \quad 4 \quad 5 \end{array}$
<small>百円玉 十円玉 一円玉</small>	

< 筆算の導入方法：ビジュアル筆算 >

筆算の導入には「ビジュアル筆算」が効果的です。

- ・左のページに大きく一問だけお手本となる筆算を書いて、数字の横にコインを書く。
- ・百の位には百円玉、十の位には十円玉、一の位には一円玉
- ・子供は左のページを見ながら理解して右のページに丁寧に写していく。

< 足し算 >

$\begin{array}{r} 3 \quad 4 \quad 9 \\ + \quad 9 \quad 6 \\ \hline 4 \quad 4 \quad 5 \end{array}$	
<small>百円玉 十円玉 一円玉</small>	

< 引き算 >

$\begin{array}{r} 1 \quad 2 \quad 4 \\ - \quad 3 \quad 5 \\ \hline 8 \quad 9 \end{array}$	$\begin{array}{r} \cancel{1} \quad \cancel{2}_1 \quad 4 \\ - \quad 3 \quad 5 \\ \hline 8 \quad 9 \end{array}$
<small>百円玉 十円玉 一円玉</small>	<small>百円玉 十円玉 一円玉</small>

< 引き算 >

$\begin{array}{r} 1 \quad 2 \quad 4 \\ - \quad 3 \quad 5 \\ \hline 8 \quad 9 \end{array}$	
<small>百円玉 十円玉 一円玉</small>	

お手本の絵図を見ながら、次第に絵図を数字で表せるように指導していきます。

お手本の絵図を見ながら、次第に絵図を数字で表せるように指導していきます。

一題ずつ問題を切ってノートに貼る

<1MX29> 月 日()
 テントウムシしょうがっこうの 1ねんせい 20にんが あかぐみ・あおぐみ・みどりぐみの 3れつに ならんで います。あかぐみは あおぐみより 2人 [ふたり] すくなくて、みどりぐみは あかぐみより 6にん おおいそです。では あかぐみ・あおぐみ・みどりぐみの 3れつは、それぞれ なんにんずつが ならんでいるのでしょうか。

<1MX29>
 あか ○○○○ 2
 あお ○○○○
 みどり ○○○○
 } 20
 6

$2+6=8$
 $20-8=12$
 $4+4+4=12$
 $4+2=6$
 $4+6=10$

あか 4にん
 あお 6にん
 みどり 10にん

<用意する物>

1. 素敵な算数文章問題
2. ハサミ
3. ノリ
4. 方眼ノート (筆算に便利です)

<使い方と注意事項>

1. 順番通りにする必要はありません。
2. ハサミで問題を切り取ります。
3. ノリで方眼ノートの一番上に貼ります。
4. 問題を読みながら絵図を描きます。
 日付も書いておきます。
 分かりやすい絵図を描きましょう。
 色を塗っても構いません。
 問題に使われている数字も書き込みます。
5. 絵図を描いたら、問題は読まずに絵図だけで考えます。
6. 絵図の中で答えを見つけます。
 絵図を何度も書き直したり動かしたりします。
7. 計算式を立てます。
8. 計算式と筆算は分けて書きます。
 暗算厳禁！全て筆算でしましょう。
 消しゴム厳禁！全て記録しておきます。
9. 答えが出れば、式が書けなくても結構です。
 答えは単位に気をつけて式とは別に書きます。

<進度について>

一つの問題に1時間以上かかる子もいます。自分から絵を描くようになるのに6ヶ月以上かかる子もいます。慌てず焦らず、ゆっくりジックリ丁寧に見てあげて下さい。

学年は0mx(年長向き)～6mx(小6向き)までありますが、大まかな区別ですので、学年に関係なく進んだり戻ったりして結構です。1時間で4題解けるようになれば、それ以上はさせる必要はありません。

毎日する必要はありませんが、1週間に1回は1時間程度考える時間を作って下さい。

どんなに簡単でも絵図を描いて絵図で確認しながら答えを導くようにします。1問を数ヶ月使って解く子もいます。早く終わったら次の学年に進んでも結構ですが全ての問題が復習にも絶えられる問題ですので繰り返してもいいでしょう。

英語・語順の覚え方

「いつ・どこで・だれが・どうした・なにをした」

これは英文を書く最初の授業で必ず教える語呂合わせです。
語順の説明・英作文の作り方・副詞の位置・特殊疑問文を作る時などに何度も繰り返して自然に覚えさせます。
もちろん全ての語順を網羅しているわけではありませんが、簡単に覚えることができる内容であり、英語学習では非常に役に立つ知識です。

<使い方>

- 1.まずは「いつ・どこで・だれが・どうした・なにをした」を五七五のリズムで覚えます。
- 2次に、後ろから「いつ・どこで」
前から「だれが・どうした・なにをした」と書きます。

だれが	どうした	何を した	どこ で	いつ
動作主	動作	動作対象	場所	時間

- 3.今度は英文を一文だけ覚えます。もちろん語呂合わせに合った英文ならどんな文でもOKです。特殊疑問文の時の展開なども考えると下記のような英文でいいのではないのでしょうか。
中1の間は全ての英文にカタカナでの発音を必ず書きます。

トム	イーツ	トゥー	アップルズ	イン	ザ	パーク	エヴリ	モーニング
トムは	食 べる	2個の	リンゴを			公園 で		毎朝

- 4.この一文で「英語の語順」「動詞の構造」「主語の人称」「英語の前置詞と日本語の助詞の関係」「副詞の位置」「副詞の種類」「前置詞+名詞=副詞の形容詞」「数詞」「名詞の複数形」「冠詞の用法」なども説明できます。
- 5教科書の文で語順を確認します。

理科・電気

「電気ならオームの法則ボア (VOA)とバウ (VAM)」

「デンキナラ、オームノホーソク、ボアトバウ」

電圧 voltage[V]/electric pressure[E]

抵抗 resistance[R]

電流 current[CUR]/intensity of electricity[I]

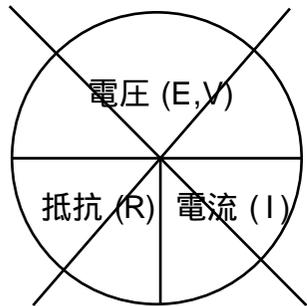
電力 electric power[EP]

単位のV(ボルト)を使う

単位の (オーム)を使う

単位のA(アンペア)を使う

単位のW(ワット)を使う



これは単なるまとめであり、工夫としてはお粗末な手抜きです。

多くの参考書では「オームの法則」を学習する場合には左記のように公式を図にして覚えますが、これも工夫が足りない例です。

記号の表記が数種類あることや、実際に使う場合は記号ではなく単位が大事であることを考えると、下記のように単位で統一する方法がベストです。

さらに、入試では電力との複合問題で出題されることが多いので、電力との関係も同時に覚える必要があります。下記の語呂合わせは入試にも対応できる優れたものです。

電気ならオームの法則ボア (VOA)とバウ (VAM)

ボルト・オーム・アンペア ボルト・アンペア・ワット

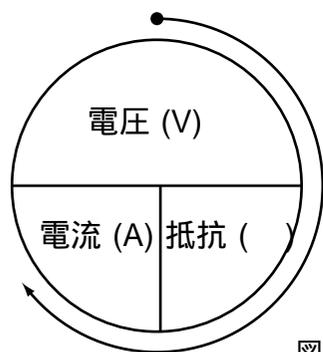


図 1

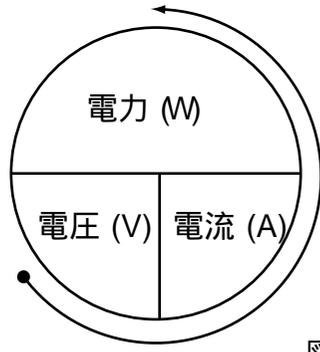


図 2

電気の問題が出たら直ぐに語呂合わせを思い出して図1・図2を書きます。

後は問題を読みながらこの図で考えればいいのです。(求めたい単位を指で隠す)

図1 $V = A \times R$ 、 $V = R \times A$ 、 $A = V \div R$ 、 $R = V \div A$

図2 $W = V \times A$ 、 $W = A \times V$ 、 $V = W \div A$ 、 $A = W \div V$

応用 V を一定にしておいて、 W をあげる(電球を明るくするなど)とは図2で A を大きくすること。次に、図1で A が一定で W をあげるには R を下げればよいと分かる。